



「下村満子の生き方塾」

ニュース Vol.09 2017.02



石井幹子先生講義と郡山ザベリオ学園出前塾を特集

今号は昨年11月19日に東京で開かれた11月勉強会での、世界的照明デザイナー石井幹子先生の応援団講義と、12月6日に福島県郡山市の郡山ザベリオ学園で行った「下村満子の生き方塾」の出前塾を特集しました。

(文責・皆川猛)

石井幹子さん 応援団講義

●シベリア鉄道でフィンランドへ

私は大学を卒業した1965年から本格的に照明の世界に入りましたが、初めに、なぜ照明デザイナーになったかをお話しします。1945年8月、小学1年の時に終戦を迎え、多感な中学時代は、民主主義、男女同権といった考え方がようやく日本にも根付いた頃でした。女性であっても実社会で活躍できる。父を早く亡くしたので③、子ども心にも、医師や弁護士、教師などになって、早く働きたいと思っていました。母子家庭であり、母方の祖父が何かと面倒を見てくれていました。

③石井先生の父・竹内悌三氏は、旧制中学在学中からサッカーを始め、1928年に東京帝大(現東京大)に入学後も、サッカーを続けた。32年に大学を卒業し東京火災保険会社に入社。36年に開催されたベルリン・オリンピックのサッカー日本代表に選出され、主将としてスウェーデン代表戦など2試合に出場した。44年、第二次世界大戦に伴って兵役に就き、終戦後はシベリア抑留となり、46年4月、同地のアムール州第20収容所で死去した。2006年、日本サッカー殿堂に特別選考により選出され、15年、サッカーをしている母子家庭の児童を援助する『竹内悌三賞』が娘である石井幹子先生により創設された。

高校生になり、職業を持った自立した女性になるには、自分の得意な分野を生かした仕事に就くことだ、と考えていたころ、東京近代美術館で開かれていたデザイン展を見に行きました。それは後で知ったのですが、ドイツで繰り広げられていたバウハウス④の作品展でした。

④バウハウスとは、絵画・彫刻・建築・工芸教育に革新的な方法を用いたドイツの総合的造形学校。1919年に建築家 W.グロピウスによってワイマールに創設された。純粋芸術と工芸技術との総合的発展を目的とし、ドイツ・オーストリアから多くの学生が集まったが、33年ナチスにより廃校になった。

この時初めてデザインの世界を知りましたが、直感的に、自分はデザインが自分に向いていると思いました。小学校に入った時から、絵が上手いと言われ、理科も好きな学科でした。大学に進み工業デザインを学びたいと思いましたが、祖父は学費が安い国立大への進学しか認めない、と言います。工業デザインを教えている国立大は千葉大と東京芸大しかありませんでしたが、運よく競争率36倍の芸大デザイン科に現役合格することができました。芸大生時代はひたすら手を動かし、彫刻とスケッチをやっていました。

1962年芸大を卒業し、小さな工業デザイン事務所に就職し、そこで照明の世界と出会いました。もっと光の勉強をしたい。初任給15000円の内から7000円をはたいて、北欧の照明を扱った書籍を買い、照明器具、照明デザイナーの世界を知りました。北欧は日照時間が短く、夜が長いから、照明の

先進国であったわけですから。こうなると、北欧に行きたい気持ち

は高まるばかりです。そこでフィンランドの著名な照明デザイナーに、照明の仕事をしたいと、手製のデザイン帳を添えて手紙を送ったところ、雇ってもいいと返事をもらいました。

当時は1ドル360円の時代で、外貨として持ち出せるのはたった500ドルでした。3年間働いて貯めたお金を元手に、1965年横浜から旧ソ連のナホトカまで船で渡り、ナホトカからシベリア鉄道などに乗って、フィンランドに入りました。このコースは当時、若者が安い費用でヨーロッパに行く定番コースだったのです。フィンランドの首都はヘルシンキで、ヘルシンキにある照明器具会社のデザイナーの助手をしました。デザインは消耗品ではないと教えられました。

1年間ほどその会社で働き、北欧照明の見本市で、ドイツの会社を紹介され、ドイツのデュッセルドルフの照明設計会社に職場を移しました。ドイツは日本同様、第2次大戦後の復興期にあったから、仕事は多くやりがいがある半面大変でしたが、ドイツや北欧は一生涯いる場ではないな、と思って帰国し、68年石井幹子デザイン事務所を設立しました。有名建築家の下で、70年の大阪万博など5つのプロジェクトに参加しましたが、72年から73年までのオイルショックの影響で、照明デザインは電力浪費の元凶と受け取られ、途方に暮れました。

しかし、産油国はお金があり余るほどあったので、しばらく湾岸諸国で仕事をしていました。サウジアラビア迎賓館に飾る120種類のシャンデリアのデザイン、サウジ中央銀行の照明デザインと、私は幅広くそして忙しく仕事をしていました。私の仕事ぶり、照明デザインを、欧米の建築家たちが目を止めてくれて、その中のアメリカの人が、10日以内にデトロイトに来て欲しいと、アメリカでの仕事を持ちかけてきました。アメリカも照明デザインの先進国でしたから、ふたつ返事でOKし、早速渡米しました。アメリカも産油国なので、オイルショックは日本ほど影響は受けていませんでした。アメリカでの代表的な作品は、ミネアポリスの生保ビルの照明でした。アメリカ、中東諸国で仕事のできたので、冬の時代を生き延びることができました。



照明の魅力を話す石井さん

●全国行脚しライトアップ実験

80年代に入ると8年間、都市照明の必要性を説明するため、ボランティアで京都、仙台、倉敷、金沢など日本各地を回り、ライトアップの実験をしました。85年のつくば科学万博や、86年の横浜市のライトアップ・フェスティバルの成功によって、照明デザインが日本でも光の芸術として認識されるようになりました。特に横浜では、開港記念館のライトアップが評判になり、異国情緒やロマンを感じさせる50か所の照明も手がけました。

続いて横浜と同じような雰囲気漂わせる函館の名所のライトアップをしました。照明は照らし過ぎると駄目で、陰影のグラデーション、明暗のコントラストが人の目を引き付けます。函館らしさを意識した照明を考え、ライトアップした名所旧跡を巡り歩く企画を打ち出しました。これは観光客はじめ、地元の人にも喜ばれたと思います。照明によって街の魅力を再発見し、これが「まちおこし」になるわけです。

1958年12月に建てられた東京タワーは、パリのエッフェル塔と違って実用一点張りの外観だから、決してセンスがいい建造物ではありません。バブル景気がピークとなっていた89年、日本らしさを前面に打ち出したライトアップをすれば、武骨な鉄製のタワーもきれいに見えるはずだ、と照明デ

●ライトアップは光の芸術

岡山県倉敷市の美観地区は、古い街並みで知られていますが、ここでのライトアップは照明の配線が見えない工夫をしました。今、「真田丸」が人気となって、大勢の観光客が詰めかけている長野県の上田城では、サクラを引き立てるライトアップをしました。白色光を多用しましたが、同じ白い色でも、清涼感のある白から暖かみを与える白までいろいろありますから、使い分けには特に気を遣います。

橋の照明では世界一だと自負しています。大きな橋だと、照明の仕方が決まり点灯するまでには、かなりの時間と人手が必要になります。船に乗り込んで、水面から橋脚、橋げたを何時間も見上げる。それも何度か行きます。例えば、横浜ベイブリッジのライトアップでは、ブルーの照明が主役ですが、ライトを設置するのにバス3台分の人出が必要で、デザインが決まるまで4年近くかかりました。東京のお台場に架かるレインボーブリッジも、橋が出来上がる前から、何か新しいセンスを盛り込んだ照明デザインを、と模索しました。さらに太陽光発電を採り入れたことから、電源の4割を自給できるようになりました。こうした取り組みは国際的にも評価され、北米照明学会大賞を2度受賞しました。



倉敷のライトアップ

今年の11月上旬に、上野公園で、「創エネあかりパーク」を行ったら、17万人が来場しました。今年も10月半ばから来年2月19日まで、東京都稲

ザインを頼まれました。

特に心掛けたことは、日本人は季節感に敏感なので、季節を意識したライトアップをすることでした。この季節感を意識した照明デザインは、海外からも注目されました。江戸開府400年記念事業の一つとして2003年行った東京・浅草の浅草寺ライトアップは、当初日没から夜8時までという予定でしたが、朱色を最大限に生かした照明は見物客から好評を得て、11時までと延長されました。

岐阜県白川村の照明デザインも印象に残る仕事です。合掌造りの里である白川郷は、1995年に世界文化遺産に登録されましたが、2003年、東海北陸道が開通すると、白川郷の民宿客は石川県の和倉温泉に流れてしまう。何とかして欲しい、と言われ挑戦しました。下から上を照らすライトアップでは白川郷の魅力は出ません。雪が覆う厳冬期、付近の山の上から、ライトダウンすると、満月に照らされたような雪の村、白い世界が幻想的に浮き出てきました。ついでに、名物のどぶろくを振る舞えば、と提案しました。どぶろくを飲めば飲酒運転になりますから、観光客は民宿に宿泊しなければなりません。雪明りを演出する照明が行われる2月、白川郷の民宿は満杯になっています。

城市にある「よみうりランド」では、ジェルミネーションと銘打ったライトアップショーを行っています。これは石井幹子デザイン事務所が開発した世界初の、宝石をテーマにした



夜空に浮かぶベイブリッジ

LEDを使用したイルミネーションです。園内では7種類25色の宝石イルミネーションを見ることができます。宝石色の輝きで満たされた、幻想的な夜の遊園地を楽しむことができることから、毎晩5千人から2万人が訪れています。

最近の海外での仕事は、2013年10月、日仏修好150周年を記念し、娘の明理(あかり)と一緒に、パリ・セヌ川の25の橋とシテ島の岸壁を、観光船からライトアップしたことや、11年9月、ベルリンのブランデンブルク門を、日独修好150周年を記念し、「平和の光のメッセージ」と題したライトアップなどがあります。

照明はお金がかからないのに、大きな効果をもたらしてくれる光の芸術です。だから自治体の首長は皆、照明開始のボタンを押すのが好きなのです。それに照明のエネルギーは安上がりで、「目に見える効果」があります。今考えていることは、「東京照明大計画」です。不要な照明は消す。街路灯は路面だけを照らせればいいのです。こうすることによって、夜の街は明暗の対比がはっきりして、街全体が魅力を増すのです。まだまだ現役で仕事をしたいと思っています。

●雑報・塾生感想 「照明の力に共感」

- …下村塾長も、石井先生も1960年代という日本の転機に欧米に渡って勉強し、帰国後は日本の高度経済成長の一端を担いました。今の日本は物質的には恵まれてはいるものの、心が貧困になっています。お話しから、こうした現状を何とかしたいという思いが伝わってきて、感謝しています。
- …照明は余りにしていなかったが、石井先生の話聞いて、とても有難いことを知りました。
- …光を操る照明デザイナーの印象は「華美」の一言に尽きますが、先生の話聞いていると、人や文化、空間を大切に思い敬う心が照明に反映されていることが分かりました。
- …実家の近くに鶴ヶ城があり、40年前からライトアップされている姿を見てきました。美しい夜景を見るワクワク感が、人の元気の素となっている話を聞きました。会津若松をもっと美しくライトアップして「まちおこし」をできないかと考えています。
- …日本を代表する景観が、石井先生のライトアップでさらに魅力アップしていることに驚きました。ライティングされた景観が好きです。なお一層の先生の活躍を期待しています。
- …照明が持つ力の大きさを感じることができました。ライトアップ=電力消費という点を、電気を作ることから考えて企画していることがよく分かりました。日本人は照明の使い方が下手と言われていたので、もっと上手に明かりを採り入れたらいいのに、と感じました。
- …何年前かに、テレビで先生の仕事ぶりを見たことがあり、素晴らしい方だと思っていました。講義の中で、「光」の効用を訴えるために全国を行脚していたことを初めて知りました。「ローマは一日にしてならず」。その苦労が実ったのだと思いました。
- …照明デザイナーとしての歩みを聞いて、先生の人となりや仕事の様子が分かり、楽しかった。地元郡山の神社で野外オペラが上演され、その時の照明に驚いたが、これも先駆者として石井先生がいたからできた、と感じました。
- …石井先生の素晴らしい作品を見て感動しました。また、自分の針路を決める際も、きちんと自分と向き合っていることが凄く思います。
- …先生の素晴らしい映像に感激しました。日本らしさの演出、周りとの融合。さすがだと感心しきりです。
- …今まではライトアップされた建物を見ても、ただきれいだな、と思うぐらいだったが、建物を生かす照明の仕方で世の中が明るくなり、地域の活性化につながることを知りました。とても得した気分です。
- …美しい光の世界を見ることができてよかった。火と光が生活の中で密接に結び合っていることを、改めて認識しました。照明は省エネが叫ばれている時代だけに、さらなる技術力の向上が求められるでしょう。光は生活がしやすくなるだけでなく、心の癒しにもつながります。これからも人と地球にやさしい照明をつくってください。
- …何事においてもパイオニアは後から称賛されます。反対も多い中で、熱意や信念があれば、不可能も可能になる。石井先生はラッキーなだけです、と話していましたが、頑張れば「見えない力」が働くのだと思います。石井先生は「昭和のトップ女性」の1人であることに間違いはありません。フィンランドまで船や汽車に乗って行った行動力。現代にもそうした熱意を持った人が、もっといることを望むばかりです。
- …ライトアップで全く違う世界になることに感銘を受けました。ライトアップで地方の活性化が図られ、経済的な効果も大きいことを学びました。照明デザイナーになるまでの道のりも、自分自身を見つめ、発想豊かに行動したことで実現しました。好きなこと、得意なことをして人々に感動を与えていくと、人にも喜ばれ、生涯現役でワクワクした人生を送れるのだと思いました。感動、好きなことを大事にして生きたいと思っています。

郡山ザベリオ学園「出前塾」

●「人間力」をつけて欲しい

「下村満子の生き方塾」は12月6日、郡山市大槻町の郡山ザベリオ学園で「出前塾」を行いました。今期から始まった「出前塾」は下村塾長のナマの話を聞きたいという集まりがあれば、塾長自ら出向いて講演・講義するもので、今回が3回目。小学6年生47人、中学1～3年生160人、教職員20人、保護者20人を前に、塾長は、「命とは何か」「生きるとは何か」「人は何のために生きるのか」をテーマに、何を基準に生きていくか考えること、人生の成功への方程式、命はつながっていること、良い行い

は良いことが、悪い行いには悪いことが起こる因果必然の法則など、「人間力」を付けて生きていくさまざまなヒントを披露しました。「出前塾」には福島県の塾生を代表し、皆川猛、伊東優子塾生も参加しました。



生徒に語り掛ける下村塾長

●好きで選んだ職業

出前塾では、滝田文夫校長が「人としての生き方を見詰め直す、いい機会です。講師である下村先生の言葉を、一つ一つじっくり噛みしめて、考えて欲しい」と開会のあいさつをした後、「生き方塾」開塾1年後の2012年に、テレビ朝日が放映した「ごごいち」のDVDを上映しました。このDVDは「生き方塾」の理念などを紹介した番組を10分に編集したもので、現在は

鹿児島県知事となった三反園訓さんと下村塾長の対談、「生き方塾」の活動が収められています。

DVD上映後に塾長が講演した内容は、以下の通りです。

現在、私には20いくつかの肩書きがありますが、やはり原点はジャーナリスト、それも国際派ジャーナリストだと考えていま

す。中東のイスラム諸国での出来事は連日国際ニュースをにぎわしていますが、1960年代終わりから70年代初めに、これらの国は「オイル・ダラー」と呼ばれた巨額な原油売却代金が入っていましたが、それまで日本ではあまり知られていなかった湾岸諸国の姿を、朝日新聞の記者として本格的に報道したのは私が最初だったと思います。1991年11月にソ連邦は崩壊しましたが、それを予感させるような連載企画を書いたこともあります。

私は1980年代初め、朝日のニューヨーク支局で特派員として、仕事をしていました。ニューヨークは大学卒業後に留学した地で、ニューヨーク大学の大学院で2年間学びました。今でこそ女性の特派員は決して珍しくありませんが、私は、日本の女性特派員の第一号でした。当時、社内には「女に特派員が務まるものか」といった反対の声が強かったものです。単身ニューヨークに渡りました。もし自分が失敗したら、続く女性特派員はなくなってしまう。女性第一号というレッテルは重く、責任も大きかったです。好きで選んだジャーナリストの道でしたから、苦しい、つらいなどは一度も思いませんでした。ニューヨークを足場に、ダイアナ妃とチャールズ皇太子の結婚式取材したりと、世界中を飛び回っていました。

両親は医療法人を経営していましたが、父が亡くなり、私は母から「医療法人の経営をやって欲しい」と頼まれました。それまで仕事、仕事と追われ、父の看病もできず、親孝行らしきことをすることができなかつたので、ジャーナリストは、フリーで続

●死は避けられない問題

私は東京で生まれ生後、一カ月で旧満州に渡り、小学一年の夏、そこで終戦を迎えました。それから日本に引き揚げられるまでの1年間は、とても厳しいものでした。終戦から父の実家がある二本松に落ち着くまでの道のりを振り返ると、今こうしてここに立っていることが、不思議に思えます。食糧難、略奪、内戦など大混戦が続き、日本に帰ることができないうち、満州の荒野で亡くなった方も数多くいます。死体を毎日のように見て、やっと雨露をしのぐ生活をしていましたから、ちょっとしたことで驚かない性格になりました。何とかなるさ、と思えるのです。小さい時から、生と死を見詰めてきましたから、その延長線上に「生きるとは何か」と考え続けてきました。

言うまでもありませんが、人生とは、生まれた時から死ぬまでの時間であり、繰り返しますが人は「死」を避けられません。どういう状態で死を迎えるのが人によって違うだけです。生まれた時から死へ向かって歩き始めるわけです。

私は仏教の考え方に共鳴しています。小さい時は、カトリックのミッションスクールに通っていましたが、仏教では輪廻転生を基本にしていますから、死を恐れる必要はないと、教えます。例えば桜は春に花を咲かせますが、やがて散り、翌春にはまた花を咲かせます。これは人間もおなじことで、死というのは生まれ変わりのきっかけですから、死を恐れる必要はないのです。

一番前に坐っている人に「あなたは誰?」と聞けば、きっと〇〇です、と名乗るでしょうアね。「では〇〇君は何者ですか?」そう聞かれれば、「人間です」、と答えます。では、「人間とは何者ですか?」「人間とは生きている動物です。」では「生きている

ける」という条件付きで、母の要請を受け入れました。医療法人の経営を13年間ほどする傍ら、二本松市にある福島県男女共生センターの館長を10年間務めました。実は父は二本松市、母は福島市出身であり、私も旧満州(現中国東北部)から引き揚げた後、1946年秋から2年間二本松の小学校に通ったこともあります。こうした経緯から、佐藤栄佐久元知事から、共生センターの館長に就いて欲しいと言われた時は、断り切れずに引き受けたわけです。

館長をようやく辞めることができた2010年に、「生き方塾」をやりたい思い、先程のDVDにもあったように、11年4月「生き方塾」はスタートしました。この塾では何を学ぶのでしょうか。「命とは何か」「生きるとは何か」「人は何のために生きるのか」という考えるダサイ塾なのです。こういった人生の根源の問題、生きる上での根本の問題を、今は学校でも家庭でも教えません。人間には個性があり、その人独自の生き方がありますが、生きていく上では、基本的な土台石が必要です。言い換えれば、判断の基準です。この判断基準を知っているか、それとも何となく学校に行き、卒業し、何となく就職して、結婚して、子供を作って…と、すべて何となくで、一生を終えるのとは、人生の中身が大きく違ってきます。でも大半の人は「何となくの人生」だと思っています。

人生はあつという間に終わり、死は確率100%で誰にでもやってきます。エンディングを迎えた時、右往左往してしまう人生は、決して幸せなものではないと思います。

とはどういうことですか?」と聞けば、「いのちがある状態です」。「いのちがある状態とは何ですか?」と聞いたら、「息をしている状態」と答えます。しかし、息は自分がしているわけではありません。意思とは無関係に呼吸しています。

では「いのち」とは何なのかを、科学的に説明しましょう。筑波大名誉教授の遺伝子学者・村上和夫先生は、「いのちは、38億年前に、一つの遺伝子から始まり、38億年の間に分裂を繰り返して、現在3千万種類の生物になりました。人間もそのうちの一つでしかありません。魚も、花も、蝶も、象も、鳥も、ゴキブリも、そして人間も、先祖をたどっていくと、源は38億年前の一つの「いのち」にたどり着きます。すべての生き物は、まったく同じ遺伝子暗号を使って生きています。我々が日常生活で先祖と言うと、曾おじいさんぐらいまで、家系図のある名家でも、せいぜい300年とか500年までしか辿れませんが、38億年をさかのぼった最初の先祖は、一つの遺伝子、一つの「いのち」に行き着きます」と書いています。

ということは、単細胞の初期の生物から人類のような高等動物まで、みんな先祖は同じであり、命はみんな繋がっているということなのです。3000万種の全生物は、皆、親戚ということなのです。中でも、人類同士は極めて近い兄弟のような存在なのです。人類同士は敵なのではなく、みんな親せきなのです。同じ「いのち」、一つの「いのち」を共有しているわけですから、仲良く地球の上で助け合って生きていくのが、本来の姿なのです。ですから、他人を殺すと言うことは、自分の命を殺すことと同じなのです。他人を殺すことは、命のつながりを切ることで

すから、自分を殺すことでもあるのです。

さらに、皆さんがこの世に生を受ける確率は、70兆分の1だそうです。これはジャンボ宝くじに、百万回連続当選するぐらいの奇跡的な確率なのです。お父さんの染色体は23個、お母さんの染色体も23個あります。これが掛け合わされて生まれる子どもの組み合わせパターンは70兆もあるそうです。で、あなたはその70兆もの組み合わせパターンの中から、一つだけ選ばれて生まれてきました。数億匹いる精子の一つだけが卵子

●眠っている遺伝子を目覚めさせる

人間は同じ遺伝子情報を使いながらも、顔つきも、体型も、得意とする分野もみな違いますが、優劣の差はありません。先程の村上先生は、ノーベル賞を受賞した天才と言われる科学者と、私たち凡人との遺伝子の差は、たった0.1%ぐらいしかない、と言います。ということは、神様は、人間を平等につくった、DNAに全ての可能性を与えてくれているのです。類人猿のチンパンジーと人間の遺伝子の差も、わずか1.5%くらいだと言われますので、ほとんど差はないということです。つまり、どんな人でも無限の可能性を秘めているわけで、どうして差が生じるかというと、村上先生は、「大多数の人は、自分の遺伝子の3%しか使っていない、あとの97%は使われないまま死んでいきます」、と言います。スイッチが入らないまま、残りの97%の遺伝子は眠ったまま、多くの人は死んでいくのです。その中には病気の遺伝子や悪さをする遺伝子もあるから、眠ったままの方がいい遺伝子もありますが、何とも、もったいない話です。「自分は能力がない」とぼやく人がいますが、眠っている遺伝子を起こせばいいのです。目覚めさせればいいわけです。自分には能力がないと思えば、自分で答えを決めていることになりまますから、能力が発揮できないことは当然でしょう。

生まれた時からある種の遺伝子のスイッチがONになっている人が、よく言われる天才とか才能のある人ですが、でも、絵の天才が音楽はオンチというように、すべてができるわけではありません。努力すれば遺伝子のスイッチは誰でもONできます。生まれもっている遺伝子を咲かせること、遺伝子のスイッチをONすることを神様は願って、平等にDNAを人間に与えたのだから、自分と向き合って、自問自答しながら自分のやりたいことを見つけ、与えられたDNAのスイッチをONにしなければならないのです。生まれつき絵がうまい、運動が得意というのは、生まれた時点でそれらを司る遺伝子のスイッチが入っているからにすぎません。つまり、人間は一生懸命に人間として正しい道を歩み、自問自答した上、自分が決めた道に沿って生活していれば、いい遺伝子のスイッチが入るのです。

私は1962年夏、経済と英語を勉強したくて、ニューヨーク大大学院に留学しました。留学の条件は英語で授業をうけられること、でした。もちろんそんな英語力はありませんでしたが、そこはうまくごまかして、単身渡米しました。授業料免除、しかも寮費はただで、お小遣いまでももらえるいい条件の奨学金でした。でも、私の当時の英語力はお恥ずかしい限りで、大学に着いたら、たちまちバテてしまいました。日本に強制送還

と結びついて、受精卵になるのです。受精のプロセス、染色体の組み合わせパターンという高いハードルを乗り越えてきたあなたは、たった一つのかげがえのない“いのち”、エリート中のエリート、奇跡的存在なのです。「自分は能力がない」「自分は頭が悪い」などと、自分を大切にしない、自分を否定する人がいますが、これまで述べたように、この世に存在するだけで、すごいことなのです。



質問する生徒

されそうになりましたが、学部長に泣きつきました。1学期の間に英語力をマスターするから、強制送還しないで欲しい、と。それから3か月、私は必死で英語を話す力とヒアリングを勉強し、夢も、寝言も英語というまでに英語力を身に付けました。環境が一変したことで、言語習得の遺伝子がオンしたのです。

このように、環境の激変、外部からの物理的な刺激や、化学的な刺激によって、遺伝子のスイッチが入ったり、切れたりすることが分かります。村上先生は数々の本を書いています。笑い、喜び、感動、感謝などのポジティブな心、気持ちも、実はストレス(刺激)であって、いいストレスと呼ぶことができます。つまり、遺伝子のスイッチは知識の動きで作動するものではなく、感情の動きである感動によってONになったりOFFになったりするものなのです。失敗のショックも遺伝子ONに作用します。面白い、おかしい、悲しい、好き、嫌いなどの感情こそが大切である、と村上先生は言います。だから失敗を恐れることもないのです。また、成功すると気持ちがワクワクするから、スイッチがONになります。

人体は60兆個の細胞で構成され、1個の細胞には大百科事典3200冊分の遺伝子情報が入っています。科学がいくら発達していても、人間は未だに細胞一つ作ることはできません。細胞たちは遺伝子情報に従って働き、この働きがなければ、人間は一刻たりとも生きていくことはできません。人工知能の計算能力は、とてつもないものですが、人工知能は人間が道具として作ったものであり、人工知能を上手に使いこなしているが人間です。人間がいるから人口知能は動くのです。これを自然界に当てはめると、眠っている間にも心臓は動き呼吸もしているから、人間は生きていられます。では心臓や肺を動かしているのは誰か、そうした働きをするように遺伝子暗号を書いた存在は何か、と疑問に思うはずですが。

村上先生は、遺伝子配列を解明した自分は偉い、と最初は思ったそうですが、よくよく考えれば、きちんとした遺伝子配列の設計図を描いた存在が一番偉いのであって、自分はその発見したに過ぎない。いったい誰がこの設計図を描いたのか?このような存在を「サムシング・グレート」

(something great)、偉大なる何物か、と言うしかないとおっしゃっています。科学者がいくら頑張っても、乗り越えることができない「偉大なる何物か」なのです。最近、科学者

●「足るを知る」が大事

要点を一度、まとめてみましょう。生命の連鎖は、地球という生命体から生命をもらっていることの証です。人間は地球、大自然と共生し、調和をもって生きているのです。しかし、人間が生きる上では、物質が必要ですから、地球を食い物にしている側面もあります。その地球ですが、資源は有限ですから、物質だけを追い求める生き方は、地球を破たんさせます。問題が多すぎます。飽食とは真逆の、「足るを知る」の生き方が、これからの時代は主流になると思っています。

これは目には見えない価値が大きくなるということです。

4年前の2012年初夏、京セラ名誉会長の稲盛和夫盛和塾長を招いてこの郡山で市民フォーラムを開催した時、ザベリオ学園の児童・生徒さんも稲盛さんの話を聞きましたね。稲盛塾長は幾つかの生きていく上で守っていくべき心得を説明したかと思えます。

まず、いいことを考え、いい行いをすれば、いい結果が出る、悪い考えを持ったり、悪い行いをすれば、悪い結果が出る、ということ。これを因果必然の法則と言います。この年まで生きてくると、この因果必然の法則は、全く正しいことが分かります。ただし、因果の法則は、今日やったことの結果が、次の日に出るわけではありません。長い時間かかって現れます。若いころは、世の中は何て不公平なのだろうと思ったこともよくありましたが、決してそうではありません。悪いことをした人は、憐れな結末を迎えている例を、沢山みてきました。

さらに、この世はいいことばかりでなく、悪いことも多くあります。人生は幸せばかりでないことも事実です。ところが考え方一つで、理不尽なことや不幸せも、いい結果をもたらしてくれます。私は何ごとにつけ、女性第一号というレッテルを張られ、男社会の中で苦勞もしましたが、これは全て修行の場と考えました。苦勞は人を一回り大きくするチャンス、心を磨く機会と、前向きに考えました。辛いことを修行の場と考えて頑張る人と、そうでない人とは、結果において大きな差ができます。考え方一つで、生まれた時から持っている遺伝子をONできるかどうかが決まるわけです。

稲盛さんが若者向けに書いた本に「きみの思いは必ず実現する21世紀の子供たちへ」があります。これは慰めで言っているではありません。その代り、思いは寝ても覚めてもひたすら描き続けるほど強いものでなければなりません。例えば、好きな人ができれば、夜も昼も思い続けますが、それと同じです。寸暇を惜しんでひたすら考え、失敗を恐れず努力していれば、必ず思いは実現します。

ジャーナリストとして私が今日まで続けてこれたのは、

●目的と結果を混同しない

人生の目的は、幸せになることですが、幸せとは何かと、考えたことがありますか。一流大学を卒業して一流企業に入る

たちも、科学の力では決してできない事柄を、つまりサムシング・グレートを、「宇宙の意志」と呼ぶようになりました。



一言も聞き漏らすまいと真剣な生徒たち

この道が本当にしたいことだったからで、目標に向かって少しずつ前に進んだ結果でもあります。母は医者だったので、母も父も私を医者にしたかったのです。私も両親の思いにこたえて医者になろうと思い、慶応女子高に入りました。学年で2番以内なら、推薦で慶応の医学部に入学できるからです。でも、学年を重ねていくうちに、どうしても、ものを書くのが好きで、活字の周辺の仕事をしたいと強く思うようになりました。物書きになるとか、新聞記者になるとかいうような大それた考えではありません。原稿取りでもいい。活字周辺の仕事とはそういうことです。

両親が勧めたように、当時、医者は女性にとってもいい、有利な仕事でした。経済的にも社会的立場も保障されています。でも、どうしても、私は医者になる気が湧きませんでした。それで親に、「どうしても医者になる気になれない」と告げると、親は「じゃあ、何をやりたいのか」と聞きます。「活字周辺の仕事」と答えても、当時、女性にはそういった道が開けていませんでしたから、分かってもらえません。でも内面から強く湧き上がる気持ちを抑えることができませんでした。親もようやく私の気持ちを分かり、最終的にはジャーナリストになったわけです。

ジャーナリストになるまでは、障壁や苦勞の連続でしたが、自分が好きだった道だから、苦勞も苦勞と思わずやって来ることができたのです。徹夜で仕事をして楽しく、いつの間にか40冊もの本を書きました。好きな仕事をすると楽しいから、必死でやります。そうするといい結果が出るから、ますます楽しくなります。

繰り返しになりますが、好きな道なら苦勞も苦勞と感じません。医者も素晴らしい職業ですが、ジャーナリストになって本当に良かったと思います。父の跡を継いで医療法人を営み、医者を雇用する立場になりましたから、母は「満子は偉いね。医者を使う立場になったのだから、結果的には、医者になるよりよかったんじゃない」とよく言っていました。私はジャーナリストと、医療という2つの仕事をしたわけです。

ことが幸せでしょうか。本当の幸せとは、自分と向き合って見つけた自分の好きなこと、したいことをすることだと思っ

す。一流大学を卒業して、いい会社に入るのは、外から見れば幸せそうに見えますが、それは見かけ上のことに過ぎず、本当の幸せは外からは見えません。お金がないのは不幸ですが、真面目にやっていたら、食べていけるだけのお金は手に入ります。億万長者が幸せかという、決してそうではありません。豪華な車や家を数多く持っても、体は一つしかないし、いくら美食しても、食べられる量は決まっています。幸せとは、しみじみと感じる楽しさ、嬉しさといった心の充実感だと思うのです。お金は結果であって、目的ではないのです。肩書き、社会的な地位、資産に惑わされてはいけません。偉い人というのは、利益などは考えずに、世のため、人のために尽す人であり、世のため、人のために何かいいことをやった後に感じる清々しさ、充実感が、本当の幸せだと思うのです。

今は平和であっても、明日はどうなるか全く分からない時代です。明日は今日の延長、と考えて生きることはできません。そこで問われるのは、何があっても右往左往しない「人間力」です。別の言葉で言えば、人間として生きていく力です。もちろん学校の勉強も大事なことは言うまでもありませんが、教わったことをしっかり記憶し、試験で良い点数を取ることは、人間力養成にはあまり役立ちません。実社会に出た時、教わった知識をどうやって社会のために役立てていくのか、応用するのか—それが大事なのです。成績が悪いことで、自分は駄目なのだと決めつけ、自分で自分の人生に×をつけるのは、一番人間力がないことです。試練を恨むか、感謝するかで、人生が変わることは先ほど言いましたね。

●まず目の前のことをやる

では質問を受けたいと思います。

【中3女子】心のレベルを高めるとはどういうことですか。

【下村】ダライ・ラマ法王は、質素な暮らしをして、全人類が幸せになるようにと毎日祈っています。稲盛塾長は億万長者ですが、贅沢はしないで中国の貧しい子どもたちに奨学金を贈り、人々の暮らしの向上に貢献している人々を毎年表彰し、賞金を贈っています。旧ソ連のユリー・ガガーリンは世界初の宇宙飛行士ですが、彼は東西冷戦の真ただ中、宇宙から見た地球は美しく、国境線などない。地球は全人類の家であり、核競争などしているのは間違いだ。国家の英雄が危険を顧みず、こう発言したのです、これらの人は、心のレベルが高い人の一例です。

中学生が心のレベルを高めるには、目の前のことをやり、いろんな本、例えば稲盛塾長の「生き方」などをじっくり読み、毎日真剣に生きることです。

【中3女子】目に見えない幸せ、価値が大事だとおっしゃいましたが、下村先生の幸せとはどんなことですか。

【下村】その時々で違いますが、今は「生き方塾」で自分がこれまで歩んできた道をいろいろ話し、それが少しでもみんなの役に立っているなら、幸せと感じています。私は毎朝、坐禅していますが、坐っていると、こうやって生きていることが何と幸せかと、しみじみと感じています。他人に優しくすると、大きな充実感を味わうことができ、本当に幸せだなあ、と思えます。幸せは計算できないものです。

ここで、稲盛塾長が説く「人生成功の方程式」を紹介しましょう。それは人生の成功=ものの考え方×熱意×能力というものです。ものの考え方が最初に来るのは、これが一番大事だからで、掛け算というのがポイントです。ものの考え方にはプラス100からマイナス100までありますから、間違った考え方をすれば、真逆の結果が出ます。だから、「人間として正しいかどうか」を判断基準にしないと、と稲盛塾長は力説するのです。

時間が迫っているので今日言いたかったことをまとめましょう。まず、自分がいかに素晴らしい存在であるのか、命とはどういうものなのか、そして命は自分一人のものではなく、次々に受け継いでいくもの、つながっているもの、あなたたち一人ひとりの中には38億年の命が凝縮されて入っており、それをみんなで分け合っていることを覚えて欲しいのです。そして強い思いは必ず実現するという。世界を平和にしたい、人殺しが社会にしたいと、一人ひとりが強く念じていれば、必ず実現します。絶対諦めないで、夢と思いを追い続けていけば、あなた方の人生は、素晴らしい人生になると思います。

他人の人生を真似るのではなく、自分の人生を花開かせる。目の前にある今日の仕事、課題に対して、ベストを尽くせばいい人生になります。過去をくよくよ悩んでも過去は戻ってこないし、来てもない明日のことを考えても意味がありませんから。そして人生の目的は、利他、つまり世のため、他人のために尽すことによって心のレベルを高める、ということにあることです。



下村塾長に感謝の花束を贈る生徒代表

●お知らせ

<東京での勉強会場が変わる>

東京での勉強会場は、2月から原則として四谷のエイトスター・ダイヤモンド2の「スペース天夢」で行っています。会場変更にご注意してください。

<来月2日に小泉元総理が特別講演>

3月2日には元総理の小泉純一郎さんが「日本の歩むべき道」と題して特別講演してくれます。会場は郡山市民文化センターで入場無料。「生き方塾」主催ですから、塾生は会場案内などの役割分担に努めて下さい。